

モニタリング結果報告書（平成25年度上半期）

施設	葉山港
指定管理者	株式会社リビエラリゾート
指定期間	H22.4.1 ～ H26.3.31
施設所管課	砂防海岸課（横須賀土木事務所）

今期の指定管理者の管理運営状況（1～6の結果を踏まえた総合評価）

C

（総合評価の基準）

- A：極めて良好な管理運営状況である。
（「1 管理運営等の状況」を含むAが3つ以上で、CとDが1つもない場合）
- B：良好な管理運営状況である。
（Cが1つ以下でDがない場合）
- C：一部改善が必要な管理運営状況である。
（Cが2つ以上の場合。または、Dが1つの場合）
- D：抜本的な改善が必要な管理運営状況である。
（Dが2つ以上の場合）

<p>< 1 管理運営等の状況 > 提案に基づいて海洋普及活動等の事業を実施し、ボート体験などの海上イベント等実施などの実績をあげた。また、軽食や船具用品などの物品販売を実施し、利用者の利便性向上を図った。さらに、平成22年度から実施している窓口業務の無休化を引き続き実施するなど概ね事業計画等の内容どおりに事業を実施したため、B評価となった。</p> <p>< 2 収支状況 > ヨットレースに対応するため雇用した臨時アルバイトに係る経費の増加を理由とした支出の増があった。収支差額は、マインス13.6%となったためC評価となった。なお、収支の差額の理由は、大きなヨットレース大会の開催（毎年開催するものではない）に伴うもので臨時的なものである。</p> <p>< 3 利用状況 > 大きなヨットレース大会の開催した結果、利用者数が目標対比増減率で104.1%のプラスとなったためB評価となった。</p> <p>< 4 利用者の満足度 > 今期は実施していない。（下半期に実施予定）</p> <p>< 5 苦情・要望等 > 防波堤の利用についての声が寄せられたが、積極的に把握しサービス向上を図ったことからB評価となった。</p> <p>< 6 事故・不祥事等 > 立入禁止区域での事故が発生したが、被害者への対応等適切に対応していたためC評価となった。</p> <p>< 今後の方針等 > 施設の魅力向上のために、これまでの取組を継続して実施するとともに、利用者の要望を踏まえたイベントの実施、物品販売等の充実や、広報活動をこれまで以上に積極的に取り組み、更なる利用拡大に努めてもらいたい。</p>

1 管理運営等の状況

評価 **B**

（評価の目安）

- A：事業計画、仕様書等の内容を上回る事業を実施した。
- B：概ね事業計画、仕様書等の内容どおりに事業を実施した。
- C：事業計画、仕様書等の内容のうち、一部の事業を実施していない。
- D：事業計画、仕様書等の内容のうち、半数以上の事業を実施していない。

(1) 事業の実施状況

	提案内容	実施状況等
1 (自主事業)	平成24年度中に認定を受けた海の駅としての役割を果たす。地域と協力をし、県の開かれた港として来港者を増やし、地元葉山町の観光にも繋がる事業を実施していく。また海洋普及に繋げる為、海を使ったイベントを開催し、子供から大人まで多くの方が楽しめるイベントを企画する。	6月にヤマハシースタイルのシースタイルフェスタを誘致し、シースタイルレンタルボートの拠点として一般の来港者を含めたイベントを開催した。海上イベントでボート操船体験やシーカヤック、フィッシング体験、大型ヨットの体験乗船を実施。陸上では飲食のマーケットや音楽イベントを実施。参加人数が2日間で約1,000名。

	提案内容	実施状況等
2 (自主事業)	ヤマハレンタルボートを従来の2艇体制で継続してチャーターを実施。ヤマハのレンタルボート会員が利用できるシステムであるが、自主開催のイベント時等は操船体験として幅広い来港者に乗船する機会を提供している。	葉山港の通年艇利用者の利用が前年比の30%増になり、利用者の利便性向上にも繋がっている。また、年間利用が2艇で300件を超え、延べ1,000名以上の方が来港した。大きな事故や怪我人はなく、安全に留意をした運用を実施している。また、葉山港の通年艇利用者については、特別会員制度による会員登録をしており、セカンドボートやクラブイベントとして利用をいただいている。
3 (自主事業)	物品販売の継続について船に乗る際に便利な物を選定し、物品販売を実施。酒類の販売も合わせて実施をする。(対人して販売を行っており、年齢確認を行った上で実施をしている。)	新たにヨットの船具類の販売を開始していく予定であるが利用者のニーズをモニタリングアンケート等で調査し追加予定。
4 (自主事業)	平成22年度より実施してきた窓口業務の無休化を本年度も継続して実施する。	窓口業務の無休化を実施し、利用者の利便性向上を図っている。
5 リストから選択		

(2) 月例報告書による確認状況

報告月	受理日	確認通知日	確認方法			指導等の有無	備考(指導事項等)
			月報確認	現場確認	電話確認		
4月	5月10日	6月21日	○	○	○	無	
5月	6月10日	6月27日	○	○	○	無	
6月	7月10日	7月31日	○	○	○	無	
7月	8月9日	8月28日	○	○	○	無	
8月	9月10日	10月4日	○	○	○	無	
9月	10月10日	11月6日	○	○	○	無	

※基本協定書上の月報等提出期限

翌月の10日まで

2 収支状況

評価 **C**

(評価の目安)

収支計画（支出額）と比較して

- A：収支状況が良好である（収支差額のプラスが10%以上）。
 B：概ね計画どおりの収支状況である（収支差額がプラスマイナス10%未満）。
 C：計画と異なり、収支差額に10%以上20%以下のマイナスが生じている。
 D：計画と異なり、収支差額に20%を超える大幅なマイナスが生じている。

単位：千円

		収入額（自主事業収入は除く）				支出額		収支差額
		指定管理料	利用料金	その他収入	収入合計		うち納付金	
募集時の県積算額 (参考)					0			0
年度計画	前年度	65,000	0	0	65,000	66,105	0	▲ 1,105
	上半期	32,500			32,500	33,053	0	▲ 553
	下半期	32,500			32,500	33,052	0	▲ 552
	今年度	64,665	0	0	64,665	68,196	0	▲ 3,531
	上半期	32,415			32,415	34,098	0	▲ 1,683
	下半期	32,250			32,250	34,098	0	▲ 1,848
上半期実績	4月	5,515			5,515	6,167	0	▲ 652
	5月	5,350			5,350	5,900	0	▲ 550
	6月	5,500			5,500	5,728	0	▲ 228
	7月	5,350			5,350	7,298	0	▲ 1,948
	8月	5,350			5,350	5,538	0	▲ 188
	9月	5,350			5,350	6,431	0	▲ 1,081
	上半期合計	32,415	0	0	32,415	37,062	0	▲ 4,647
	対収支計画比	0.0%			① 0.0%	② 8.7%	③	▲ 13.6%
参考	前年度 上半期実績合計	32,500			32,500	33,977		▲ 1,477
	対前年度 上半期実績比				▲ 0.3%	9.1%		

※その他収入の内容

注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しない。

収支状況に関する確認等

確認項目	該当	収支計画と異なる理由等
① 収入の増減（収支計画対比±10%以上）	×	該当なし
② 支出の増減（収支計画対比±10%以上）	×	該当なし
③ 収支差額のマイナス（上半期収支計画支出額対比）	○	4月～8月については、ヨットレースのシーズンとなるため、夏季の臨時アルバイト等の出費が多くなった。アジア大会誘致を含め、人を要するイベントやレースの誘致が多くなった。

<参考>

本施設について県が支出した（する）計画修繕工事・各所営繕工事等に係る修繕費等
 基本協定において、県が負担することとしている修繕費等： 30万円以上

	金額（千円）	工事箇所・内容（金額）
上半期	0	
下半期		
合計	0	

今期に行った資本的な収入及び支出等の状況

	金額（千円）	内容
収入	0	
	0	
	0	
	0	
支出	0	
	0	
	0	
	0	
積立等	0（期首）	
	0（期末）	

収入：定期預金の取り崩し、借入れによる収入等
 支出：車両の購入、施設の増改築、定期預金の積立て等
 積立等：施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等

3 利用状況

評価 **B**

(評価の目安)

今年度上半期ヨット出艇数が、
目標対比増減率で

- A : 105%以上
- B : 95%以上～105%未満
- C : 85%以上～ 95%未満
- D : 85%未満

目標ヨット出艇数等を設定して
いない場合、前年同期対比増減
率で

- A : 105%以上
- B : 95%以上～105%未満
- C : 85%以上～ 95%未満
- D : 85%未満

入所施設等定員がある場合、定
員比で

- A : 100%
- B : 90%以上
- C : 80%以上
- D : 80%未満

	ヨット出艇数	前年同期ヨット出艇数	前年同期対比増減率
4月	964 艇	1,206 艇	79.9 %
5月	1,232 艇	1,126 艇	109.4 %
6月	1,048 艇	894 艇	117.2 %
7月	1,486 艇	1,056 艇	140.7 %
8月	2,762 艇	1,997 艇	138.3 %
9月	1,454 艇	1,554 艇	93.6 %
合計	8,946 艇	7,833 艇	114.2 %

	ヨット出艇数	前年同期数	目標数 (または定員数)	目標(定員) 対比増減率	前年同期 対比増減率
上半期計	8,946 艇	7,833 艇	8,600 艇	① 104.1 %	② 114.3 %
下半期計	— 艇	— 艇	— 艇	— %	— %
合計	8,946 艇	7,833 艇	8,600 艇	4.1 %	14.3 %

※目標値の設定の有無

期間	設定している	その他の場合の期間
基準	半期ごと	その他の場合の基準
	指定管理者提案値	

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 目標対比±5% (目標値対比増減率105%以上または95%以下)	×	該当なし
② 前年対比±5% (前年同期対比増減率105%以上または95%以下)	○	8月に小中学生のディンギーヨットOP級のアジア選手権を誘致した。通常のヨットレースと違い約10日にわたるレースがあったため出港数が増加した。

<参考>

施設の最大利用可能数

	係留施設	陸置施設	駐車場	会議室	多目的室	合計	
1日あたりの延べ数	63	253	137	42	84	579	
年間利用可能日数	365	365	365	365	365		
最大数	63	253	50,005	15,330	30,660	0	96,311
半期	63	253	25,003	7,665	15,330	0	48,314

※複数の施設がある場合は個別に記入する。

4 利用者の満足度（アンケート結果）

評価 **—**

(評価の目安)

「満足」（4段階評価及び5段階評価の場合、上位2段階）と答えた割合が

- A：80%以上
- B：60%以上～80%未満
- C：40%以上～60%未満
- D：40%未満 又は（A～Cにかかわらず）「不満足」と答えた割合が50%以上
- ：今期は実施していない

	とても良い	良い	普通	悪い	とても悪い	合計	上位2段階の割合
総合満足度の回答結果						0	0 ()

※今年度の実施予定

上半期 0 回

下半期 1 回

その他

※配布・回収件数

配布 件

回収 件

回収率 %

※実施方法

リストから選択

リストから選択

リストから選択

リストから選択

5 苦情・要望等

評価 **B**

(評価の目安)

- A：要望等を積極的に把握して改善を行う等、サービス向上を図った。
- B：指定管理者に起因しない苦情・要望等があったが、適切に対応した（苦情・要望等がない場合も含む）。
- C：指定管理者に起因する苦情・要望等があったが、適切に対応した。または、指定管理者に起因しない苦情・要望等があり、適切に対応していない。
- D：指定管理者に起因する苦情・要望等があり、適切に対応していない。

報告件数

上半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	簡易アンケート等	
上段：報告件数	1	1	0	0	0	2
下段：報告件数のうち所管課受付分	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)

苦情・要望等への対応

該当あり

分野	概要	対応状況
施設・設備	船舶や防波堤への立ち入り時刻を早めてほしい。	県と協議の上防波堤については利用人数に応じて15分程度時間を早く解錠した。
	施設の陸置き募集を実施してほしい。	工事の目途が経ち次第募集を開始する事で説明。
職員対応		
事業内容		
その他		

※ 指定管理者に起因するものは必ず記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

6 事故・不祥事等

評価 **C**

(評価の目安)

- A : 事故・不祥事等を防止するために積極的に取り組み、事故等が発生しなかった。
- B : 軽微な事故・不祥事等が発生したが、適切に対応した（事故等が発生していない場合も含む）。
- C : 事故・不祥事等が発生したが、適切に対応した。または、軽微な事故・不祥事等が発生し、適切に対応していない。
- D : 事故・不祥事等が発生し、適切に対応していない。

発生状況及び対応状況

該当あり

発生日	事故等の概要	原因・問題点	指定管理者の対応状況・改善策等
4月25日	立ち入り禁止区域に利用者が入り肩の骨を折る怪我をした。	立ち入り禁止の看板が強風で飛ばされており、自由に入れる環境であった。巡視の見落としも原因の一つ。	被害者への謝罪をし、怪我について賠償を行う予定であったが、被害者が業務中であった為、先方の労災が使用された。施設については巡視マニュアルを見直し安全管理を強化した。
9月19日	葉山港を出港した学生のディンギーが海上で横転をし、学生1名が心肺停止状態で帰港した。	技術的要素と自然的要素の2面がある。事故時は強風注意報が発令されており、注意喚起については問題はなかった。	学生団体へ呼びかけを行い、ヨットレース開催の前に安全講習会を実施して貰う。また、利用者向けの安全講習会を管理事務所でも定期的に開催する。

随時モニタリングの実施状況

該当なし

実施日 (事故発生日)	経緯・調査内容	調査結果等
()		
()		
()		